

## 富山市まちなか住宅家賃助成事業補助金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、富山市補助金等交付規則（平成17年富山市規則第36号。以下「規則」という。）第24条及び富山市まちなか居住推進事業制度要綱（以下「制度要綱」という。）第8条の規定に基づき、富山市まちなか住宅家賃助成事業補助金の交付に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱における用語の意義は、建築基準法（昭和25年法律第201号）、建築基準法施行令（昭和25年政令第338号）及び都市計画法（昭和43年法律第100号）の例によるほか、次の各号に定めるところによる。

- (1) 家賃 民間賃貸住宅の賃貸借契約に定められた賃借料の月額（共益費、駐車場料金等を除く。）をいう。
- (2) 民間賃貸住宅 市営、県営、地域優良賃貸住宅等の公的賃貸住宅又は社宅、官舎、寮等の給与住宅以外の賃貸住宅（共同居住型賃貸住宅の場合は、建物の用途が寄宿舍であり、かつ1世帯につき1居室以上の専用部分があるものに限る）であって、かつ、その所有者等と賃貸借契約により賃借人が自己の居住の用に供する住宅（所有者が個人の場合は、所有者、その配偶者、親若しくは子が居住のために使用する部分又は法人が所有者の場合は、当該法人の役員、その配偶者、親若しくは子が居住のために使用する部分を除く）をいう。
- (3) まちなか 制度要綱第2条第1号に掲げる区域をいう。
- (4) 大学生等 学校教育法（昭和二十二年三月三十一日法律第二十六号）に規定する大学院、大学、短期大学、専修学校及び高等専門学校（ただし4年生以上に限る）の学生をいう。
- (5) 世帯等の所得月額 補助事業の対象者（以下、「交付対象者」という。）及び同居する者の過去一年間における所得税法（昭和四十年法律第三十三号）第二編第二章第一節から第三節までの例に準じて算出した所得金額の合計から次に掲げる額を控除した額を十二で除した額

をいう。

イ 所得税法第二条第一項第三十三号に規定する控除対象配偶者（以下、「控除対象配偶者」という。）、同項第三十四号に規定する扶養親族（以下、「扶養親族」という。）又は同居する者がある場合には、その者一人につき三十八万円

ロ 控除対象配偶者が所得税法第二条第一項第三十三号の二に規定する老人控除対象配偶者である場合又は扶養親族に同項第三十四号の四に規定する老人親族がある場合には、その者一人につき十万円

ハ 扶養親族のうち十九歳以上二十三歳未満の特定扶養親族がある場合には、その者一人につき二十五万円

二 交付対象者又はイに規定する者が所得税法第二条第一項第二十八号に規定する障害者である場合には、その障害者一人につき二十七万円（その者が同項第二十九号に規定する特別障害者である場合には、その者一人につき四十万円）

ホ 交付対象者又はイに規定する者が所得税法第二条第一項第三十号に規定する寡婦である場合には、その者一人につき二十七万円

ヘ 交付対象者又はイに規定する者が所得税法第二条第一項第三十一号に規定するひとり親である場合には、その者一人につき三十五万円（補助対象の区域）

第3条 この要綱による補助事業の対象区域は、まちなかの区域とする。（補助金の交付対象者）

第4条 交付対象者は、次に掲げる要件を全て満たす者とする。

- (1) まちなかの民間賃貸住宅へ、自己の居住用として契約し入居すること。ただし大学生等の場合は、3親等以内の親族の名義で契約して入居する場合を含む。
- (2) 前号の民間賃貸住宅に住所を有すること。
- (3) 第1号の民間賃貸住宅に住所を異動する前の住所がまちなかの区域外であること。
- (4) 交付対象者が、補助金の交付期間中に再度転居する場合で、引き続きまちなかに居住する場合は、前号の規定は適用しない。
- (5) 交付対象者及び交付対象者の属する世帯の構成員に本補助金又は富

山市ひとり親家庭等家賃助成事業補助金の交付を受け、その交付期間を満了した者がいないこと。

- (6) 生活保護法（昭和25年法律第144号）第14条に規定する住宅扶助を受けていないこと。ただし、第6条第2項で定める交付対象期間の一部について住宅扶助を受けていた月があった場合は、その月を除いて交付するものとする。

（補助金の交付期間）

第5条 補助金を交付する期間は、交付対象者となった月（交付対象者となった日が月途中の場合は、当該月の翌月）から起算して3年とし、次に掲げる場合には各号に定める期間とする。

(1) 大学生等の場合は、交付対象者となった月（交付対象者となった日が月途中の場合は、当該月の翌月）から起算して3年又は大学生等である期間とする。

(2) 交付対象者及び交付対象者の属する世帯の構成員に本補助金又は富山市ひとり親家庭等家賃助成事業補助金の交付を受けている者がいる場合は、その者の補助金の交付期間の最終月までを交付期間とする。

(3) 賃貸借契約の契約者の名義変更等により、転入又は転居せずに交付対象者となった場合は、まちなかに転入又は転居した月（転入又は転居した日が月途中の場合は、当該月の翌日）から起算して3年とする。

（補助金の額及び交付対象期間）

第6条 補助金の額は、毎月の契約家賃から住宅手当又は生活困窮者自立支援法（平成25年法律第105号）第2条第3項に規定する生活困窮者住居確保給付金、その他の家賃補助等（以下、「住宅手当等」という。）を差し引いた額で千円未満を切り捨てた額とする。ただし、1世帯に対する補助金の限度額は月額1万円とする。

2 前項の補助金は、3年間の交付期間を6月ごとの6期に区分し、それぞれの期を交付対象期間とし、交付対象期間ごとに交付するものとする。ただし、第5条第1項のただし書きの大学生等又は同条第2項に該当し交付期間の最後の期が6月に満たない場合は、交付期間の最終月までを交付対象期間とする。

（補助金の交付の申請）

第7条 補助金の交付を受けようとする者（以下「補助申請者」という。）は、規則第4条第1項の規定により、前条第2項の各期の期間満了後6月以内に、富山市まちなか住宅家賃助成事業補助金交付申請書（様式第1号）に次に掲げる書類を添えて市長に提出しなければならない。

- (1) 申請内訳書
- (2) 当該民間賃貸住宅の賃貸借契約書の写し
- (3) 入居世帯の所得を証する書類（所得・課税証明書等）
- (4) 補助申請者の納税を証する書類（納税証明書等）
- (5) 家賃を支払ったことを証する書類
- (6) 住宅手当等を証する書類（給与明細、住居確保給付金決定通知書等）
- (7) 生活保護法に規定する住宅扶助を受けていたことを証する書類（補助金の交付対象期間に住宅扶助等を受けていた場合）
- (8) 在学証明書（補助金の交付期間を大学生等である期間とする場合）
- (9) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める書類

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる者は、同項の申請をすることができない。

- (1) 世帯の所得月額が44万5千円を超えている者
- (2) 市税を滞納している者
- (3) 第6条で定める補助金の交付対象期間において当該民間賃貸住宅の家賃を滞納している者
- (4) 家賃補助の申請の対象とした民間賃貸住宅を自己の居住用以外の目的に使用し、若しくは転貸し、又は使用权を譲渡している者
- (5) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第6号に規定する暴力団員（以下、「暴力団員」という。）
- (6) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団（以下、「暴力団」という。）又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有すると認められる者
- (7) 前各号に掲げる者のほか、市長が別に定める要件に基づき補助金の交付をすることが不適當であると認める者  
（交付決定等）

第 8 条 市長は、前条の規定による補助金の交付の申請があったときは、当該申請に係る書類等の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、補助金を交付すべきものと認めるときは、補助金の交付を決定し、及びその額を確定するものとする。この場合において、補助申請者に文書を交付して通知するものとする。

2 規則第 19 条の規定により、規則第 5 号の交付の決定及び規則第 13 条の額の確定の手続を併合するものとする。

3 前項の規定により併合した規則第 5 条及び規則第 13 条の通知は、富山市まちなか住宅家賃助成事業補助金交付決定通知書兼額確定通知書（様式第 2 号）により行うものとする。

（補助金の交付）

第 9 条 市長は、前条に規定する通知の後、当該補助申請者に対し補助金を交付するものとする。

（交付資格の喪失）

第 10 条 市長は、補助申請者が、第 6 条第 2 項の各期の途中において次の各号に該当するときには、その期に係る補助金は交付しないものとする。

(1) 第 4 条に規定する要件を満たさなくなった場合

(2) 第 7 条第 2 項第 4 号から第 7 号に該当した場合

（交付決定の取り消し）

第 11 条 市長は、補助金の交付を受けた補助申請者（以下「交付決定者」という。）が次の各号のいずれかに該当するときには、補助金の交付を取り消すことができる。

(1) 偽りその他不正な手段により、補助金の交付を受けたとき。

(2) 補助金の使途が、暴力団の利益になるものと認められるとき。

(3) その他市長が相当の理由があると認めるとき。

（補助金の返還）

第 12 条 市長は、前条の規定により補助金等の交付の決定を取り消し、又は変更した場合において、既に補助金が交付されているときは、既に支払われた補助金の一部又は全額について、交付決定者に対して、文書を交付してその返還を請求するものとする。

2 前項の規定により補助金の返還の請求を受けた交付決定者は、当該補助金を市長が定める期限までに返還しなければならない。

(細則)

第13条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

第1条 この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

(経過措置)

第2条 この要綱の施行の日までに本要綱第4条に規定する交付対象者で第5条に規定する交付期間内の者は、この要綱の施行の日を含む交付対象期間を月割にして当該月以降分の補助金の交付申請をすることができるものとする。

附 則

(施行期日)

第1条 この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

(経過措置)

第2条 この要綱の施行前に改正前の要綱第4条に規定する要件を満たしている者は、なお従前の例による。

附 則

この要綱は、平成30年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。